

べたところ本種であった。平山（2005）による栃木県日光市の記録個体は、カラマツの新しい立ち枯れから得られ、今回筆者が見つけた伐倒木も、最近まで立ち枯れていたものと思われた（図2）。また、今回本種が得られたのは4月下旬と早い時期であり、標高850mのスギやカラマツの植林地であったことを考えると、これまで十分な調査が行われず、本州からの記録が遅れたことは想像に難くない。

今後、亜高山帯の天然針葉樹林のみならず、初夏における山地帯や里山の植林地などの調査によって、各地からさらなる追加記録が期待される。

末筆ながら、文献記録をご教示いただいた中山恒友氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 河野廣道，1938. 本邦未記録の甲蟲ツヤキカワムシ科に就いて：トドマツ・エゾマツ類の害蟲調査報告第14報。昆虫，12(5): 157-160.
平山洋人，2005. ツヤキカワムシを本州から採集。月刊むし，(407): 40.

(山田 航 251-0032 藤沢市片瀬2-13-17)

【短報】屋久島のアマミマルカッコウムシ

屋久島で採集されたアマミマルカッコウムシ *Allochotes yuwanensis* Yajima & Nakane の79個体について、体型、色彩、点刻の個体変異を報告する。採集地は屋久島南部の原，中間～栗生林道，花山歩道で，5月～7月のシイやミズキの花すくい，小枝を束ねて木につりさげたトラップにより採集された。採集者は全て向山敬延氏である。

- 図1：青緑色で丸い体型。61exs.
図2：青緑色で細長い体型。1ex.
図3：青紫色で細長い体型。2exs.
図4：紫色で丸い体型。2exs.
図5：黒色（所々に青緑色）で丸い体型。11exs.
図6：青緑色，細長い体型で上翅が皺状で点刻が大きく見えるもの。1ex.
図7：青色，丸い体型で上翅が皺状で点刻が大きく見えるもの。1ex.

体型、色彩、点刻から屋久島産はナガマルカッコウムシと思ったが、前胸背の毛は黄褐色と茶色の毛が混っていたのでアマミマルカッコウムシと同定した（ナガマルカッコウムシの前胸背の毛は黄褐色）。

報告にあたり標本を提供して下さった向山敬延氏、ご教示を頂いた村上広将氏にお礼を申し上げます。

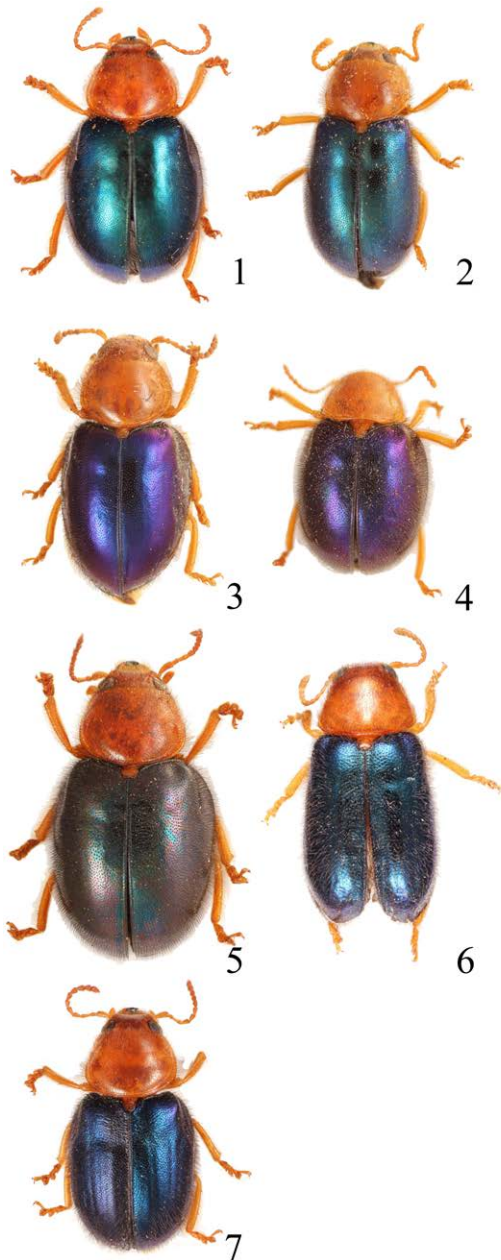


図1-7. 屋久島のアマミマルカッコウムシ。1，原，20. VI. 2007；2，中間，1. VII. 2008；3，栗生，7. VII. 2009；4，中間，7. VII. 2007；5，栗生，17. VII. 2008；6，花山歩道，16. VII. 2001；7，栗生，27. VI. 2009.

引用文献

- 村上広将，2015. 日本産マルカッコウムシ属 *Allochotes* 概説。さやばねニューシリーズ，(18): 1-5.

(田中 稔 663-8002 西宮市一里山町19-18)